

「一視同仁」の精神養う教育環境

7月、長崎大学病院内に研修医や若手医師のスキルアップを支援する「友廣記念医師育成室」がオープンしました。次世代の医師の指導に尽力したある長崎大学のOBの先生のご遺志が、“医師の卵”たちに最高の学ぶ環境と機会を与えてくれました。

最高の教育設備で研修医を迎える

河野氏 昨秋、佐世保の医療法人佐世保同仁会より、若手医師の育成に役立ててほしいと、1億円という多額のご寄付をいただきました。ちょうど大学病院が本館を改修していましたので、ハード面に役立てる形で、若手医師たちへの取り組みを考えました。浜田先生、具体的にどのように活用させていただきましたか？

医師育成キャリア支援室室長

浜田 久之氏



はまだ・ひさゆき
大分医科大学卒、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了。内科医。厚生労働技官としてトロント大学で家庭医学と医学教育を学ぶ。“若人の集う長崎大学病院”のために働く

Hamada Hisayuki

浜田氏 これまで研修医室が3か所に分かれており、使いにくいという多くの声がありました。また、医学生が研修医病院を選択するにあたって、研修医室などのハード面は重要なポイントとなるようです。そこで今回、276平方mの大きな研修医室を第1外来棟7階に新設しました。とてもスタイリッシュで豪華です（笑）。研修医各自に机と椅子を配置し、医科60名、歯科45名、合わせて105名分に対応しています。またインターネットを整備し

たり、仮眠室を備えたりと至れり尽くせりの研修医室になりました。研修医もとても喜んでいて、学生も驚いています。「すごい！」と。

河野氏 研修医室の上階にある教授や医局の先生方の研究室よりも、壁の色や素材などはぐっといいものが入っていましたね（笑）。

受付にコンシェルジュを配置するようですが、いったい何ですか（笑）？

浜田氏 医局には受付などの先生方のお世話をしてくださる方がいます。配置したコンシェルジュは研修医専属の雑用や事務を担当してくれる係です。

研修医室の隣には医師だけでなく、歯科医師や看護師、薬剤師も使えるような90平方mのシミュレーションセンターも新設しました。使い勝手がよいように設計し、高度シミュレーターを導入しました。今後全職種を対象に、救急救命部門の教育を充実させたいと思います。

河野氏 寄付は部屋をつくりこむだけの設備だけでなく、無料英会話教室の実施など教育システムの構築でも有効に使わせていただいています。今から大学病院で研修される方は幸せですね。

故友廣先生の精神を受け継ぐ

河野氏 「友廣記念医師育成室」の名前は、実は今回ご寄付いただいた医療法人佐世保同仁会の創設者、故友廣嘉久先生を顕彰し名前を頂きました。友廣先生は長崎大学医学部のご出身で、消化器の若手の育成にも尽くしていただきました。佐世保市にご開業後も長年にわたって、大学病院と連携を取ってこられ、そのご遺志を継いだ奥様で前理事長の初栄さん（2010年6月逝去）が若手医師の育成を支援したいと寄付を申し出てくださいました。

浜田氏 友廣先生のエピソードはありますか？

河野氏 私が1974年に研修医を終えて大学院にい

故友廣嘉久氏プロフィール



1924年、佐世保市生まれ。長崎大学医学部卒業後、消化器学を専攻。長崎大学医学部講師、鹿児島大学医学部助教授を経て、多くの医学生や研修医の指導に尽力。1959年、佐世保市内に開業してから、佐世保同仁会病院、サンレモ・リハビリ病院を設立し、地域医療に貢献した。2000年逝去。享年76歳。

たときに、佐世保市の友廣先生の病院に当直などで診療応援に行きましたね。内視鏡や透視などの消化器に関して、とても熱心な先生でした。当時、僕は消化器を専攻しようと思っていたんですけどね、どっからか道が曲がってしまいました(笑)。優しい先生でしたよ。開業されながらも機器を大学病院にご寄付されることもあったし、次の世代の医師の教育に理解のある先生でした。

浜田氏 昔から長崎大学OBには人材育成に熱心な方がいらっしゃったんですね。

河野氏 友廣先生が名付けられた「同仁会」の名前には「一視同仁」、つまり人を分け隔てなくみて、誰にでも同じように仁愛を施す意味があるそうです。育成室は友廣ご夫妻からの温かい贈り物です。研修医たちにはその精神をしっかり受け継いでほしいですね。

大学病院が地域の教育の拠点に

浜田氏 最近、大学病院で若手医師の雑用軽減キャンペーンを行っていただき、若い医師たちが随分働きやすくなったと思います。雑用も減り、労働時間も効率的になりました。院内の先生方からは「甘やかし過ぎ」という声も聞きますが、河野先生は若い医師に何を望みますか？

河野氏 一見「甘い」と映るかもしれませんが、ほかの世界では極めて当たり前です。封建的な医局制度の悪い部分を根っから改善しようと努めてきました。人は考え方も生き方も違いますが、若いときは柔軟性もあり、能力は無限です。鉄は熱いうちに打てと言われるように、若いうちには指導できるス

タッフがたくさんいて、専門科も充実している大学病院から医師人生をスタートさせて進むべき道を見つけてもらいたいと思います。ある人は地域医療、ある人は先端医療の研究、ある人は海外での研究を目指すかもしれません。多様な人材を育む場として、大学病院があるのです。整った環境で医師が育つことは、将来的に長崎の医療を支える力にもつながるはずですよ。

病院長

河野 茂氏



Kono Shigeru

こうの・しげる
1950年生まれ。
長崎大学医学部卒。
専門は呼吸器内科学。
2009年4月より
長崎大学病院長

浜田氏 そうですね。さらに、今後の病院や地域の教育についてはどうお考えですか？

河野氏 医師だけの教育を充実されても病院の大きな改善には結びつきません。歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカル、一般職員までも含んだ全体的な職員教育の充実が必要です。さらには地域の教育拠点となる必要があると思います。

浜田氏 今回新設されたシミュレーションセンターでは、さまざまな教育プロジェクトが開始されました。薬剤師のための診察技術修得コース、看護師のための診察技術修得コース、看護師のための急変対応コース、一般職員のための救急の基本コースなどが大学だけでなく、地域の医療従事者のために行われる予定です。県内の医療をレベルアップするため、最先端の教育ソフトを提供していきたいと思います。

河野氏 友廣先生や初栄さんが大学病院に大きなチャンスを与えてくださいました。本当にありがたいことです。医師会の先生方にも是非一度おいでいただいて、ご子弟の研修先として長崎大学病院を考えていただきたいものです。